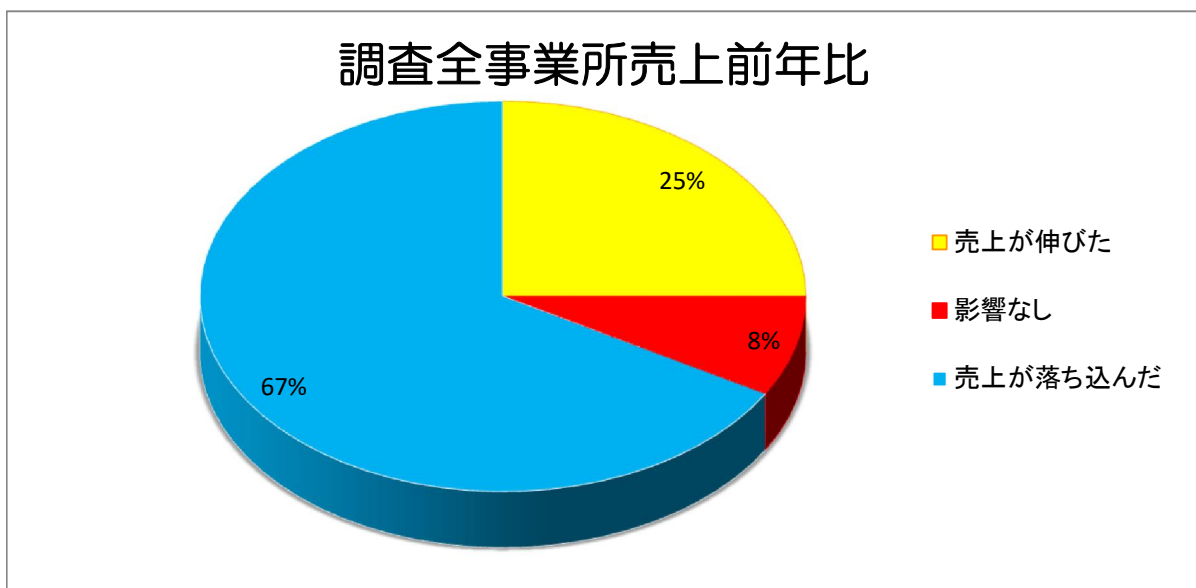
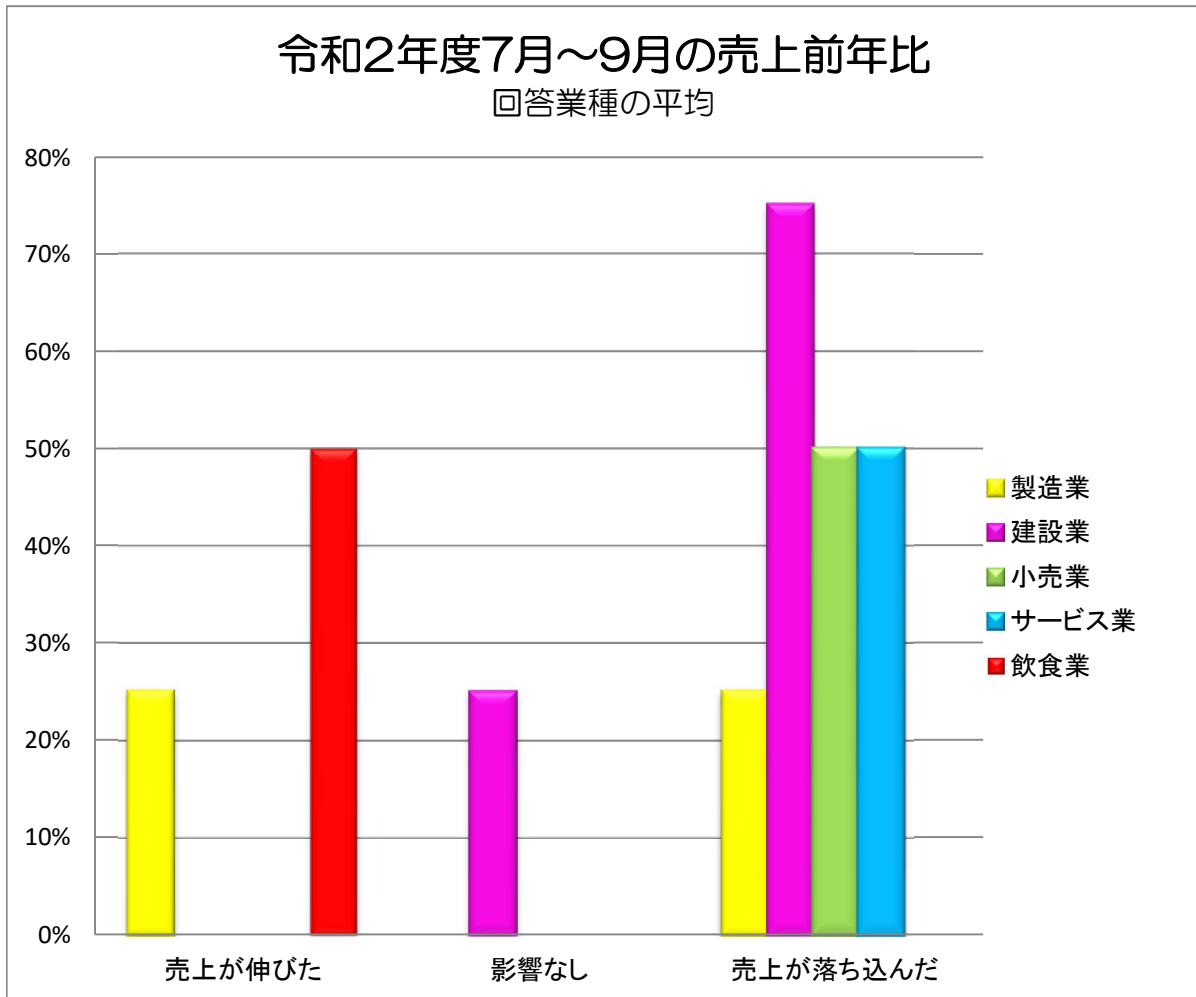


令和元年度
管内小規模企業景気動向調査概要
(令和2年度7月～9月)

みやぎ仙台商工会

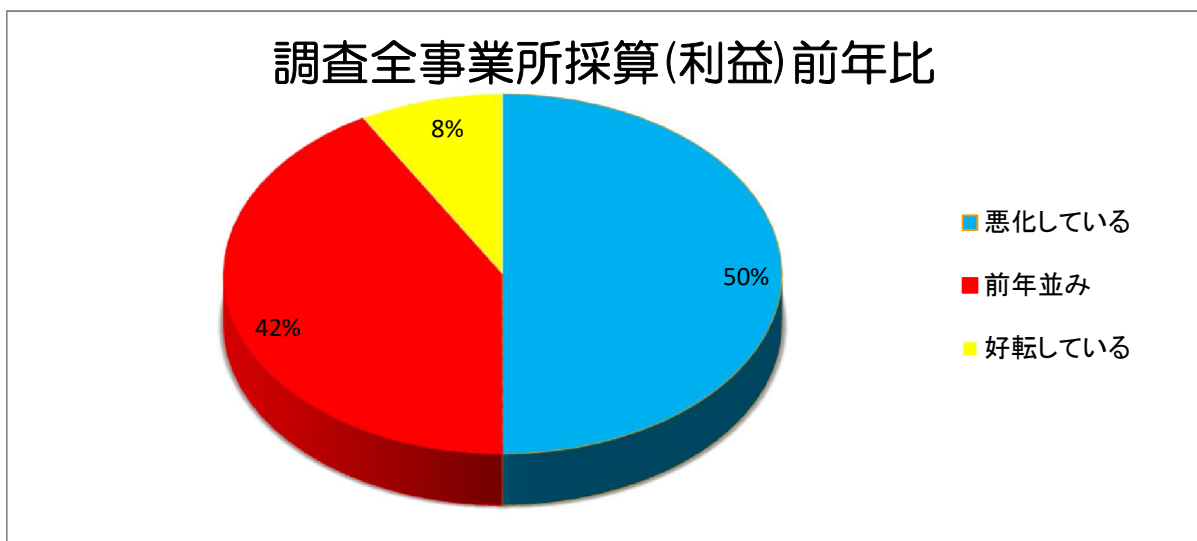
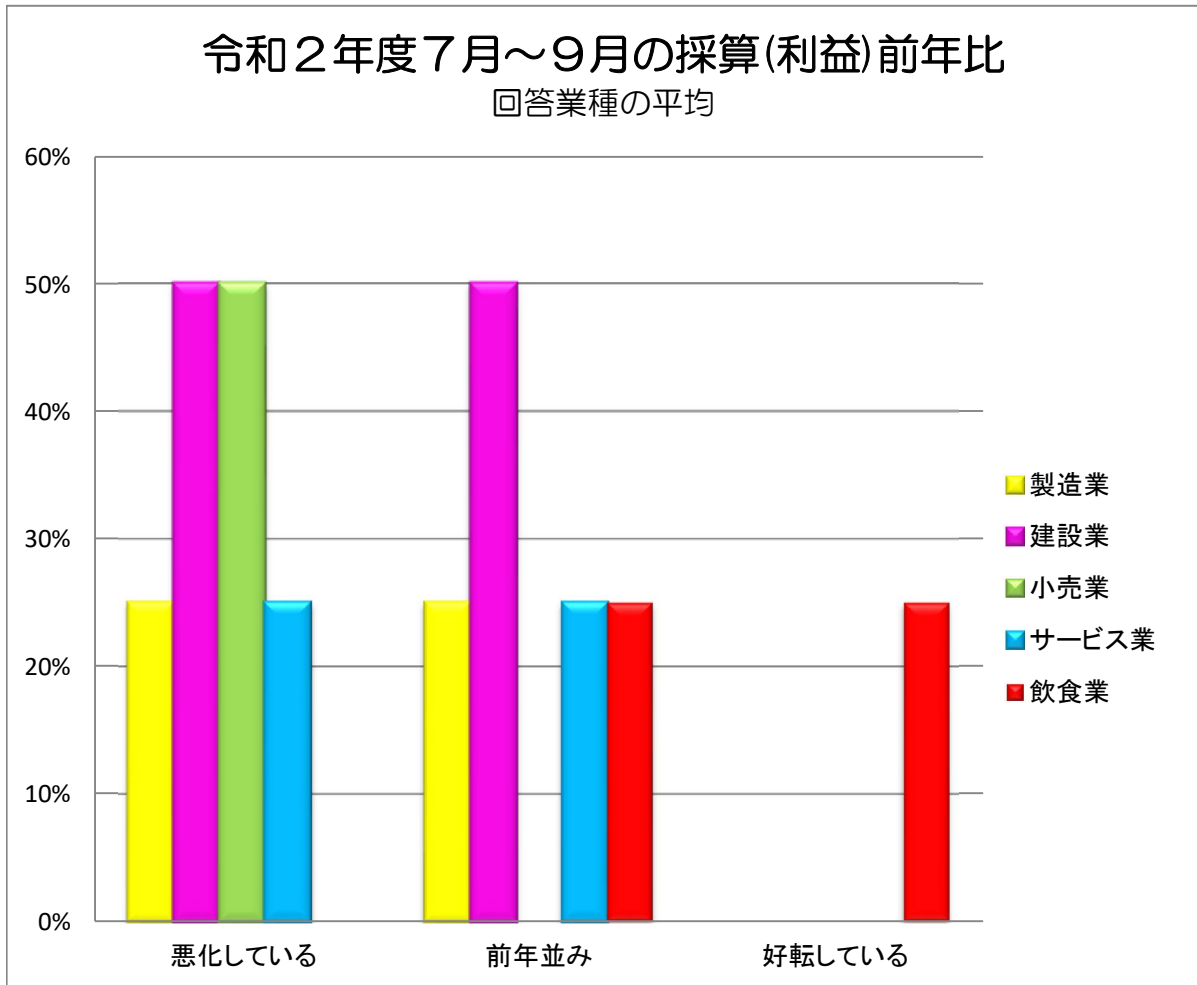
質問 I 売上高は、前年同期に比べてどうですか？



下段のグラフによると、業種を考慮せずに、事業所ごとの対売上前年比を調査したところ、『売上が落ち込んだ』が6割を超え、続いて『売上が伸びた』、『影響なし』の順番となった。

更に、上段のグラフで、業種ごとの回答を調査したところ、飲食業以外では『売上が落ち込んだ』が一番多いことが顕在化した。中でも、建設業では、75%の事業所で『売上が落ち込んだ』と回答したのに対し、飲食業では、『売上が伸びた』と回答した事業所が50%に達した。

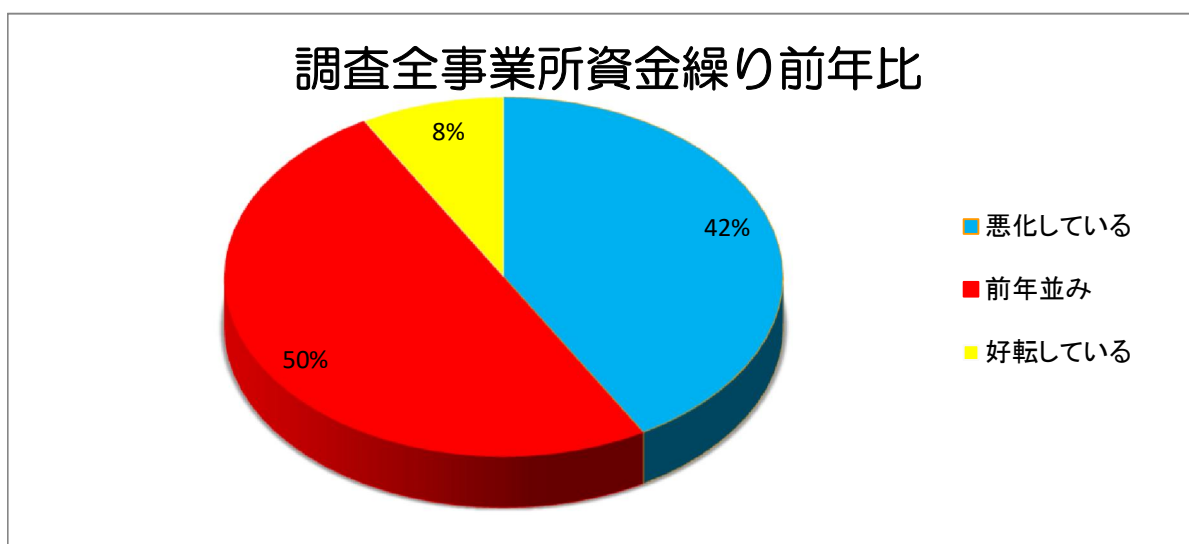
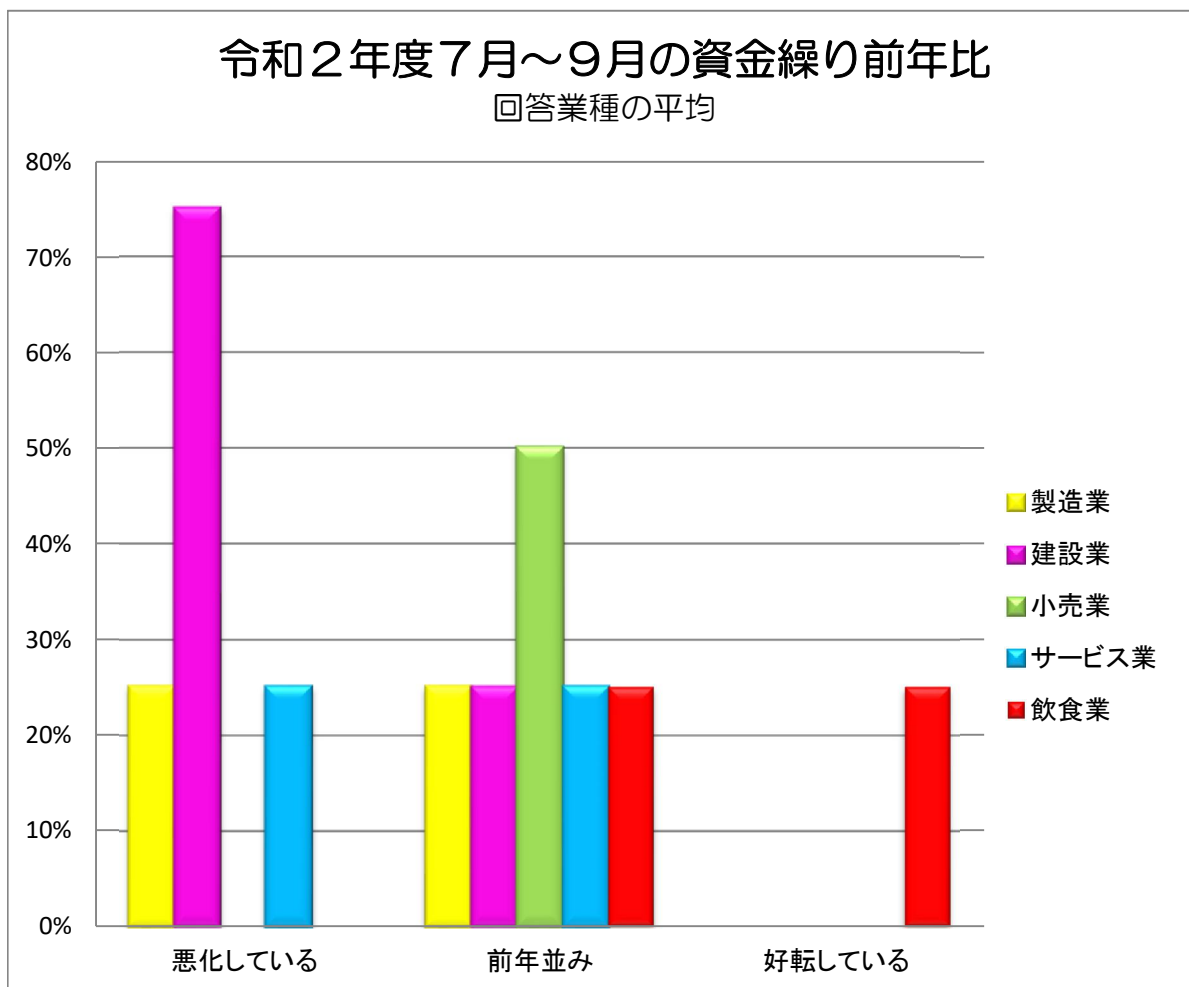
質問Ⅱ 採算(利益)は、前年同期に比べてどうですか？



下段のグラフによると、採算(利益)については、ほぼ半数が『悪化している』と回答したのに対し、『前年並み』『好転している』の順で回答しており、こちらも不調が上回っていることが伺える結果となった。

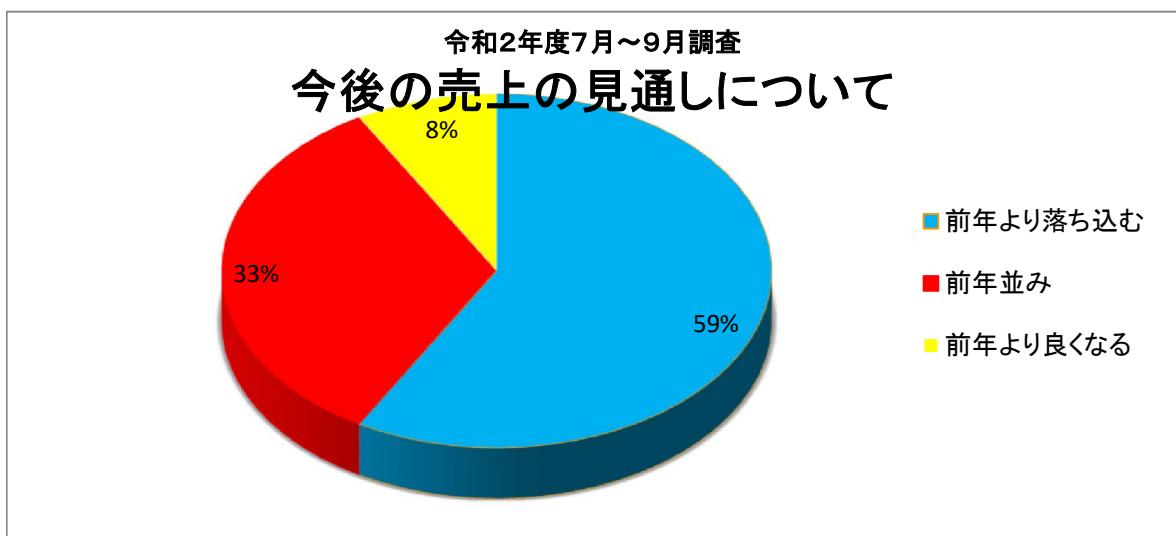
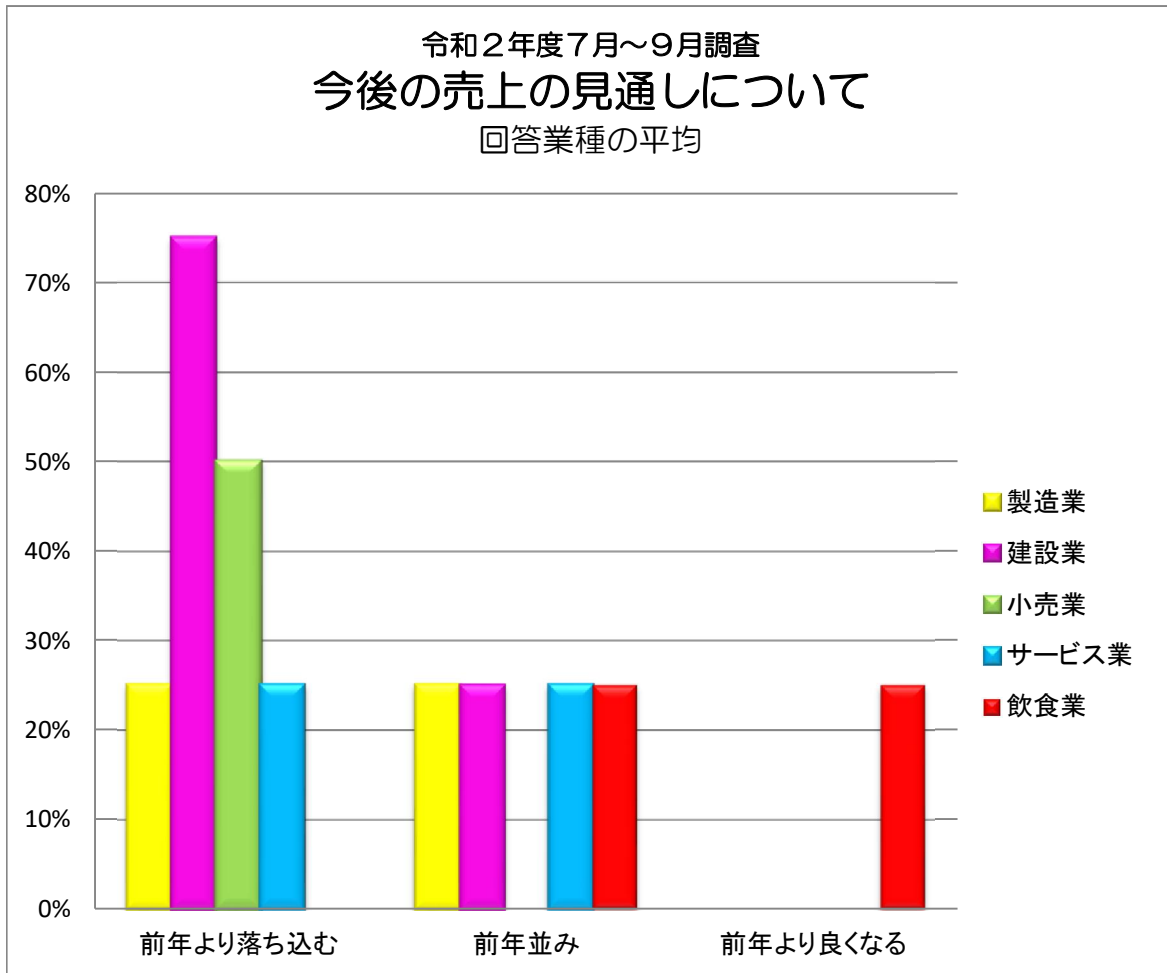
上段のグラフによると、建設業、製造業、小売業、サービス業は、減収減益傾向。飲食業は増収増益の事業所も垣間見える結果となった。

質問Ⅲ 資金繰りは、前年同期に比べてどうですか？



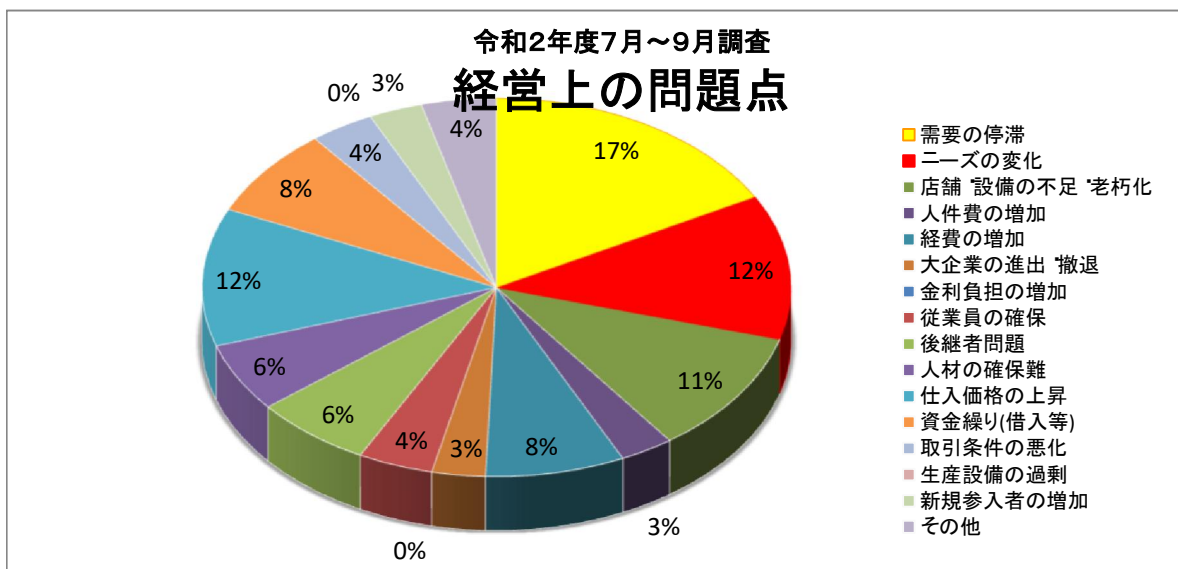
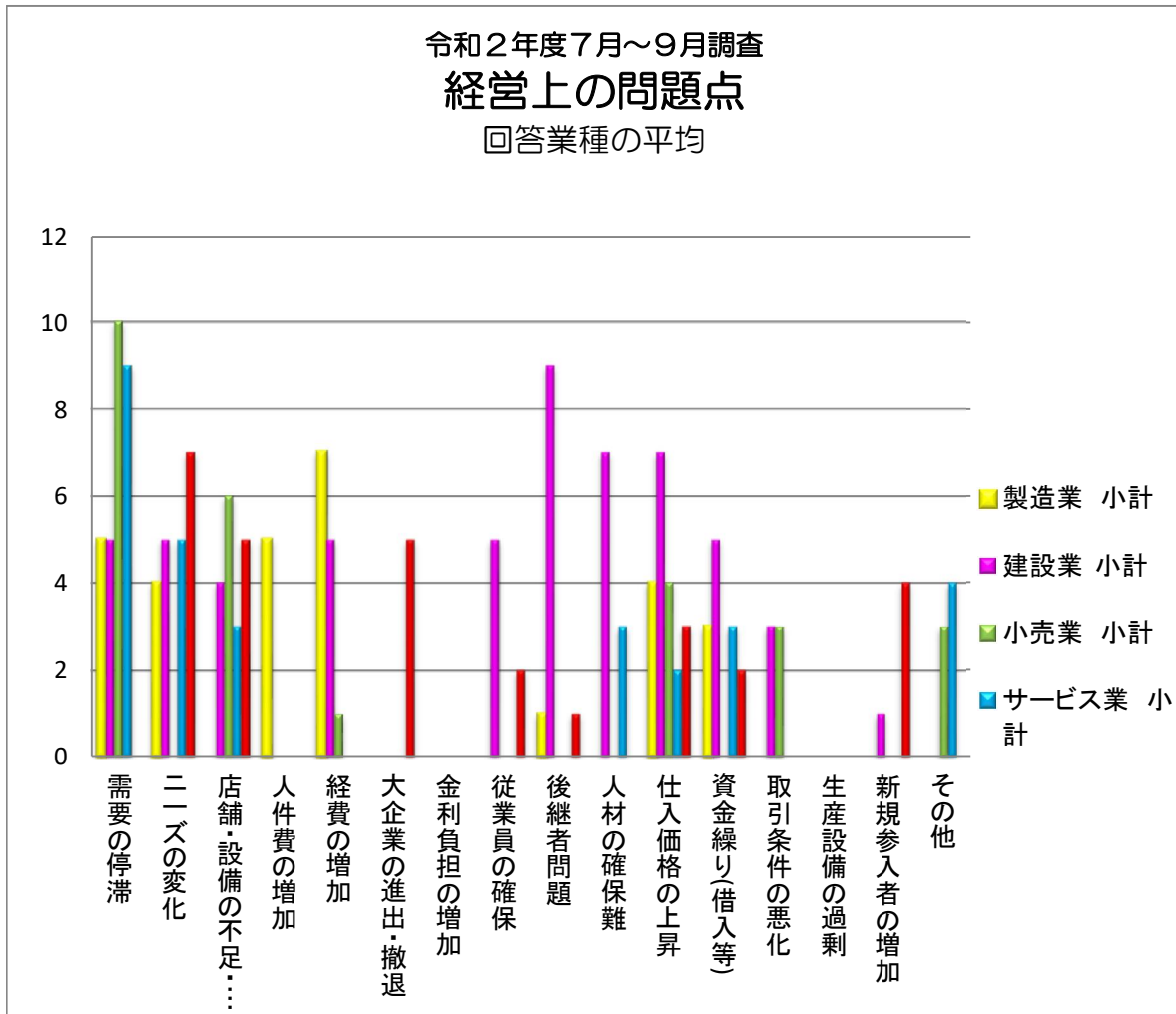
資金繰りに関しては、50%の事業所が前年並みと回答しているのに対し、悪化しているのがほぼ全業種に亘って42%の回答があり、好転している8%の事業所に対して大幅に多いことから、傾向を注視し、引き続き早めに対策を練っていく必要がある。

質問Ⅳ 今後の売上の見通しについて



今後の売上の見通しについては、「前年より落ち込む」が一番大きく、続いて「前年並み」更に「前年より良くなる」という項目が続いている。
中でも、建設業及び小売業では、「前年より落ち込む」と回答する者が多く、飲食業では、「前年より良くなる」と回答する者が出てきている。

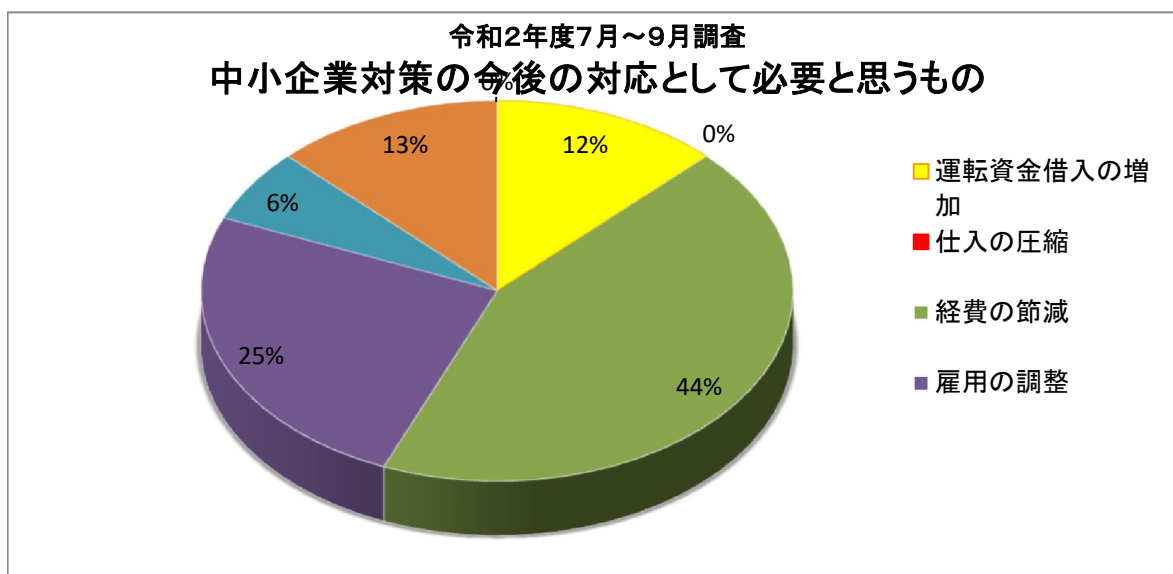
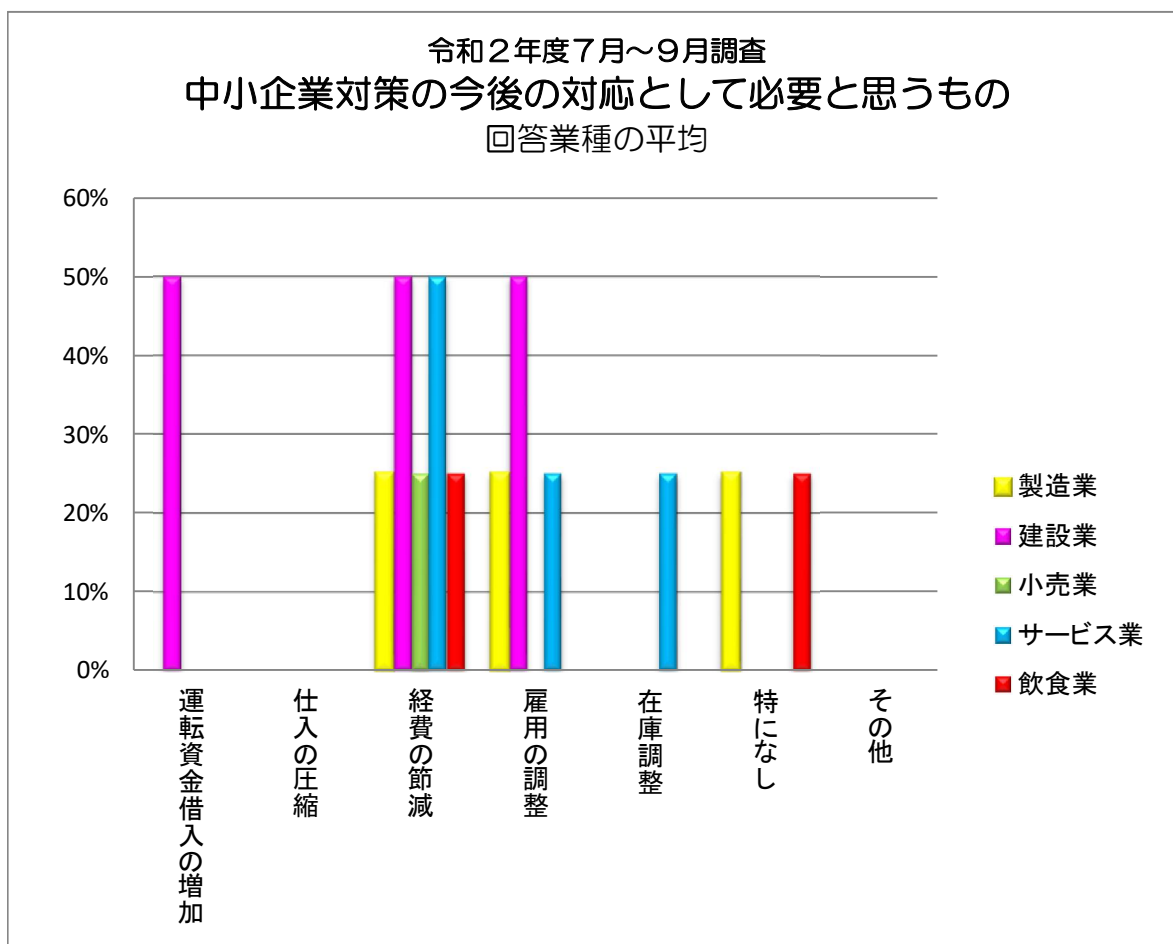
質問Ⅴ 経営上の問題点として重要な点を下記により上位5つまで選んで重要な順に記入願います。



※質問が上位5つを選んで重要な順に選んでくださいとなっていることから、順位1位を5点…順位5位を1点として集計しております。

経営上の問題点は、全体としては、需要の停滞が17%、ニーズの変化が12%となっており、業種別に見ると、需要の停滞は、小売業、サービス業でそれぞれ1位となっており、ニーズの変化は、飲食業で1位となっている。その他特筆すべき点としては、建設業では1位で後継者問題、製造業では経費の増加が1位となっており、消費者の需要の停滞やニーズの変化という大きな問題に対応していくために必要な経費の増加や、後継者問題という姿が顕かになってきており、いかに解決していくかが喫緊の課題となっていることが明らかになってきている。

質問VI 景気低迷による中小企業の対策として、今後どのような対応を講ずる必要があると思いますか(複数回答)



中小企業対策の今後の対応として、必要と思うものについては、全体としては、「経費の節減」となっており、この項目は建設業、小売業、サービス業でトップとなっている。また製造業、飲食業では、「特に必要と思うものはなし」という回答がそれぞれの業種ごとのトップ(同数1位)となっている。しかしながら、「経費の節減」は需要の停滞への影響がでることや、「特に必要と思うものはなし」は事業へのあきらめともなりかねず、昨今の事業承継の問題などとリンクして、解決するのは難しい問題となっている。

